



展覧会名	matohu 日本の眼 日常にひそむ美を見つける
会期	2012年7月21日(土) → 11月25日(日) 開場時間 / 10時~18時(金・土曜日は20時まで) 休場日 / 月曜日(8月13日、9月17日、10月8日は開場)、9月18日
会場	金沢21世紀美術館 デザインギャラリー
料金	無料
主催	金沢21世紀美術館 [(公財)金沢芸術創造財団]
協力	株式会社アイ・オー・データ機器、宇仁織維株式会社、苔盆栽 隆龍 RYU-RYU、SOMA DESIGN、畑中正人
お問い合わせ	金沢21世紀美術館 TEL076-220-2800

展覧会について

なにげなく通り過ぎるいつもの風景に、新鮮な美が息づいている。日本人にとって、美は超越的な概念ではなく、自然や日常の中にひそんでいる様々な層を繊細に見つめることでした。すなわち「日本の眼」とは歴史のなかで日本人がゆっくりと培ってきた、「美に気づく視点」なのです。

服飾ブランドmatohu まとふ(まとうと読む)は、2005年のデビュー以来、「日本の美意識が通底する新しい服の創造」をコンセプトにした独自のスタンスで、東京コレクションにおいて異彩を放ってきました。そして2010年から「日本の眼」をテーマに、日本の美意識をひとつずつ取り上げ、毎シーズン服で表現する挑戦を続けています。金沢21世紀美術館デザインギャラリーでは、「かさね」「無地の美」「映り」「やつし」などをキーワードに、日本の美意識の再発見とその表現を、matohuの最も代表的なアイテム「長着(ながぎ)」—コレクションテーマにそって同じデザインで作られ続けている服—を通して展示します。

歴史の経糸を貫く感性が、現代の生活にどう生かされ、個々人の生活に気づきと豊かさをもたらすのか、そのヒントを見つけに来てください。

展覧会の特徴



2010-11 AW 「かさね—秋冬—」
©matohu



2011-12 AW 「無地の美」
©matohu



2012 SS 「映り」
©matohu



2012-13 AW 「やつし」
©matohu

① matohu—「纏う」—「待とう」

ブランド名matohuには、「纏う」と「待とう」の二つの意味が込められています。「風をはらむ動作と静かな余韻を残すたずまい」。matohuは、洋服とは異なる視点から身にまとう、日本の美意識に根ざした身体感覚に着目した服づくりをしています。また、他のファッションブランドがシーズン毎にめまぐるしい速度で変化していくなかで、matohuはブランドとしてスタートした2005年の最初のコレクションで、「慶長の美」シリーズ5年分10シーズンのテーマをまとめて発表。これはファッション業界のなかでは既成概念をくつがえす試みでした。「性急に消費し捨てるのではなく固有の美意識が成熟するのを待とう」というコンセプトは、matohuの存在感を際立たせています。

② 「日本の眼」としての初の展覧会

この展覧会は、matohuが2010年の秋冬コレクションから新たにスタートした「日本の眼」シリーズとしての初の展覧会になります。

「日本の眼」

「日本の眼」シリーズは、なにげない日常の中で見いだされる日本の美意識やアイデンティティをファッションというフィールドで見つめ直す、matohuが現在取り組む新シリーズです。

5年10シーズンにわたり、桃山から江戸時代にかけての文化や工芸などをモチーフとして手がけられてきた「慶長の美」シリーズから、より本質にせまるシリーズといえます。

【主なテーマ】

「かさね」「無地の美」「映り」「やつし」

③ 長着(ながぎ)—「形を変えないデザイン」

洋服でも和服でもない新しいアイテムとして誕生した「長着(ながぎ)」は、形を変えないことをコンセプトに、各テーマにあわせて多彩な染め・織り・加工などで毎シーズン作られています。

「長着(ながぎ)」は、全てのコレクションにわたり同じ型紙が使用されていますが、素材や織り、加工によっては全く異なる印象をもちます。また内着と外着で重ねる構造は、シーズンに左右されずに様々な組み合わせで着ることができ、不変であることで自在な着方ができるという、新しいコンセプトのアイテムなのです。今回は、このmatohuのデザインコンセプトが凝縮した「長着」を通して「日本の眼」シリーズを俯瞰できる展示となっています。

④ インタラクティブな展示

本展では「日本の眼」コレクションの中から抜粋した服を、実際に試着し、身にまとうことのできるコーナーや、「無地の美」をテーマに来場者が撮影した写真をモニターで流したり、自分で器や物を取りあわせて「映り」の美を体感していただけるなど、インタラクティブな展示が行われます。来場者の方が、服を通して物の見方、美意識に対しての気づきを与えてくれるような、またmatohuのブランドコンセプトを眼と身体で体感できるインタラクティブな展示となります。

⑤ アーティストたちのコラボレーション

今回本展覧会のために、グラフィックデザインにはドラフト、会場音楽にはコレクションのテーマ音楽も手がける畑中正人、また会場にインスタレーションされる苔盆栽を手がける隆龍など、ファッション業界でも今最も注目を集めるブランドの一つであるmatohuのユニークな世界観に賛同した多くのクリエイターたちが協力しています。

プロフィール

matohu(まとふ)

堀畑裕之と関口真希子による服飾デザイン・ブランド。
「日本の美意識が通底する新しい服の創造」をコンセプトに、2005年デビュー。5年間10シーズンにわたり「慶長の美」を大きなテーマに、織部・志野・かぶき者など慶長年間(1596~1615年)の精神を服の造形に活かした大胆なコレクションを発表。2009年 毎日ファッション大賞新人賞・資生堂奨励賞を受賞。2011年スパイラルガーデン(東京)と熊本市現代美術館で「matohu 慶長の美」展を開催。2010年より「日本の眼」をテーマに、固有の美意識を現代に生かす服作りをさらに先鋭的に展開している。



2.
©Keisuke Akabane

関連プログラム

ワークショップ「身近な「無地の美」を見つける」

[講師] 堀畑裕之、関口真希子(matohu)

[日時] 2012年8月4日(土)14:00~17:00

[会場] 松涛庵(金沢21世紀美術館敷地内)

[料金] 1500円(茶菓代込み) [対象] 18歳以上

[定員] 15名(要電話予約:学芸課076-220-2801) [持ち物] デジタルカメラ

アーティスト・トーク「日常にひそむ美を見つける」

[出演] 堀畑裕之、関口真希子(matohu)

[日時] 2012年8月5日(日)14:00~15:30

[会場] 金沢21世紀美術館 レクチャーホール [料金] 無料

[定員] 80名(先着順、事前申込不要)

広報用画像

画像1~6を広報用にご提供いたします。

ご希望の方は下記をお読みの上、広報室へお申し込みください。

Email: press@kanazawa21.jp

＜使用条件＞

※広報用画像の掲載には各画像のキャプションとクレジットの明記が必要です。

※トリミングはご遠慮ください。作品が切れたりキャプション等の文字が画像にかぶったりしないよう、レイアウトにご配慮ください。

※情報確認のため、お手数ですが校正紙を広報室へお送り下さい。

※アーカイブの為、後日、掲載誌(紙)、URL、番組収録のDVD、CDなどをお送りください。

以上、ご理解・ご協力の程、何卒よろしくお願い申し上げます。



1.
matohu 2012-13 AW collection
©Hanayuki Higashi

※このプログラムを紹介いただく際には、事前にご連絡ください。

広報担当/ 落合博晃、中山なち、沢井美里

〒920-8509 金沢市広坂1-2-1 TEL 076-220-2814 (広報室) FAX 076-220-2802
<http://www.kanazawa21.jp> E-mail: press@kanazawa21.jp